

(様式第4号)

上田市学校給食運営審議会(第2回) 会議概要

1 審議会名	学校給食運営審議会
2 日時	令和6年1月12日 午後7時から午後8時10分まで
3 会場	市役所本庁舎 2階 202・203 会議室
4 出席者	山邊久史会長、小池瑞季副会長、天野みちる委員、金井剛委員、城田真裕委員、永井幹則委員、八巻恵子委員、横澤智昭委員
5 市側出席者	峯村教育長、小野沢教育次長、清水第一学校給食センター所長、武捨第二学校給食センター所長、坂口丸子学校給食センター所長、小須田学校保健給食課長、浅野学校保健給食課学校保健給食係長、池田学校保健給食課主査、山浦学校保健給食課主任
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和6年1月22日

協 議 事 項 等

1 開 会 (事務局)
2 会長あいさつ (山邊校長)
3 協議事項
(1) 令和6年度からの適正な学校給食費の算定について
・資料に沿い、事務局から「1 給食費の見直し」「2 今後の給食費の改定について」「3 学校給食における地場産物の活用の位置づけ」「4 学校給食の理解を深める取組」について概要を説明。
・以降、協議
(委 員) 資料3ページ(4)②物価高騰影響分の中の上昇分7.3%の意味を具体的に説明してもらえると、おかげでいくら上げていかなければいけないのが見えてくると思う。
(事務局) これは、国が毎月示す消費者物価指数の前年同月比の上昇分になり、その数値を使って計算をしている。
(委 員) おかずのみの金額155円、175円、214円の7.3%分として11円、12円、15円ということが良いか。
(事務局) そのとおり。端数は調整している。
(委 員) 見直し額について、真田地域は他に比べて大きく上がってしまう。他の地域と比べることは多分ないと思うが、他の地域よりも高く上げる理由をきちんと説明しないと、菅平や真田の人たちが納得するのか心配である。真田ではみかんを半分にして提供している等、現場の工夫や苦勞が保護者に伝わらないと、公平感が担保できないと思う。
(事務局) 真田地域の差額分については昨年度の審議会でも話が出ており、それぞれのPTA等で協議をしたかどうかというご意見があった。今年度、真田地域の学校長に現状をお伝えし、他の地域で値上げをする以上に、真田地域はさらに10円の値上げを検討してほしいとお願いしている。現在、学校にはよるが、来入児保護者会や学年会等において値上げについて説明をしたり、PTA 役員に話をした等と聞いている。今回、この審議会でも市全体としての値上げの金額が決まったところで、10円の値上げについても説明をする方向で検討している学校が多いと捉えており、それについてはやはり不公平感を持たれることのないよう、丁寧な説明が必要であると考えている。
(委 員) 給食センターに納入する業者であっても、地元の小規模な業者が辞めてしまい、今まで安価で納入してもらえていた物が、違う業者からはなかなか安い値段で入らなくなり、厳しい現状がある。真田地域は距離や規模の問題があり、さらに厳しい状況ではないか。
(委 員) 給食施設により給食費に10円から6円の差があることに対して、リンゴ等の果物を6分の1、8分の1と小さくして提供する、魚や肉類が少ない分、凍り豆腐でタンパク質を補う等、様々な工夫がされている。この機会にこのデメリットを解消し、同じ市内なので統

一することが公平だと思う。この案の方向で良いと思うが、先ほどの意見のとおり、説明を丁寧にすることは大切である。

(委員) 前回、長野県の中でも塩尻市の給食費が非常に高いことについて、自校給食が多く、それによって納める業者が少ないので、どうしても高くなってしまおうという説明があった。真田地域は食育に力を入れていた経過があるので、業者ではなく地場の農家さんたちも協力してやってきたのだらうと思う。しかし、今、地元の農家はものすごく高齢化が問題になってきて、非常に困っている。もう1つが、配達賃がものすごく上がっている。2024年4月にトラックの問題も出てきて、そこにきて今この異常気象が襲い掛かってきている。去年の夏は本当に異常気象であり、2023年度は異様に物価指数の率が上がっているのだと思う。そのため、これからどうなるかは分からないが、下がることはないというのが実際のところ。人件費が上がったりする中で、いろいろな部分を上げるしか方法はないのではないかと思う。

(委員) 今回の値上げ幅について、令和6年度の主食と牛乳の値上げが合計で10円以上となった場合は、給食費をここからさらに10円引上げるとなると、一番値上げがされる菅平中学校では、年間で8,000円くらいになる。今の日本の経済状況を見ていくと、この値上げ自体は仕方がないとは思いますが、職業から生活困窮世帯に関わることもあり、年間で8,000円から9,000円の値上がりとなった時に、説明を丁寧にするということはとても重要だと思う。

また、前回の資料を見ると、上田市で公費負担をしていることは非常にありがたいと思うが、今回のこの値上げに関して、公費負担をさらにアップするという考えがあるのか。

(事務局) 4年度から5年度に引き上げた24円は、5年度に限り公費負担とし、6年度からは保護者負担を原則としてお伝えしている。さらに8月以降の給食費に対して、今年度に入ってから値上げ分に対応するために22円の公費負担をしている。その部分について、来年度以降の給食費が厳しい状況であるため、今回、値上げをお願いするものである。6年度以降については、現段階で公費負担の部分ははっきり決まっていないが、国の交付金では、給食費の保護者負担軽減への活用を推奨するという通知も出ているので、今回の値上げに対して、活用できる部分は活用していきたいと考えている。なお、困窮世帯に対しては就学援助制度があり、小中学生の学校給食費に関して、援助費が80%や半額という市町村がある中で、上田市は100%の支給をさせていただいている。

(委員) 公費負担について聞いたのは、公に補っていただくのは非常にありがたいが、またさらに公費負担となると財政面の圧迫にもなると思う。いずれは、やはり保護者が支払う形になり、その時の心理的な負担は非常に大きいと思うので、丁寧に説明をしていただければと思う。

(委員) 積算根拠が細かく示されているので、わかりやすい数値が出ていると思う。物価上昇分が令和5年11月時点なので、来年度に少しでも値上がりし始めると、また同じように不足するのではないかと思う。私の積算では、おかず部分に関してはもう少し上げた方が良いのではないかと考える。実際、給食センターの監査を6年前と今年と2回ほどしたが、卵や調味料といった基本食材がもう既に6年前より10%上がっている。このことを考えると、昨年もかなり高かったが、これから先も最低でも1%ずつは上がっていくのがわかる。4月ぐらいでこの給食費にまで届いてしまったとなると、また見直しが必要になる。もう一段思い切って5円くらいずつ上げて良いのではないかと考える。みかん半分とかは、さすがにかわいそうだなと思う。今まで自校給食で安かった分、上田地域と同率になるので、ここの一気の上げ幅は仕方ないという旨も、丁寧に説明をするとのことであるため、個人的にはもう少し上げられないかと感じる。

地域食材について、地場産物を入れることは良く分かるが、選定業者の入札であったり、地域の業者を守るということもあるが、例えば月に1回だけ、本当に安いところから仕入れて月間分を調整する努力等をできればしてほしい。1回、2回、何か別の食材を使ったとしても、地場産物や郷土に関わる料理を積極的に取り入れることに反しているわけ

ではないと思う。肉や魚は大量に仕入れることができる場所もあるので、そういったところを考慮してもらえれば、給食費が上がっても月に1回か2回、メイン食材が100gで10円下がるようなものを仕入れる手法、手段も考えてもらえればと思う。

これは意見であり、価格の変動とかではないので、検討材料にさせていただけば。

(事務局) 給食費については、なかなか物価が安定しない中で、今後も上がっていくことはある程度推測できると思う。一方で、11月に入り物価指数が若干下がり、ある程度落ち着いていく傾向が見られているところもあり、今後の推計の中で金額を提示することは難しい。これまでの8年間も含め、食材の部分や各給食施設のいろいろな工夫の中で対応しており、その中で厳しい部分、固定費等の調理の中で対応できない部分の急激な値上がり状況を見た中で、給食費の改定の見直しをさせていただいている。保護者の方の負担に繋がる部分でもあるため、慎重に対応する中で、現状で分かっている上がり幅と、今後を見越したところと、今まで取り組んでいる各施設の工夫の中で、今回この金額を提示している。できれば、先ほどの考え方の中で、毎年ではなく3年間の中で見直し、固定費については毎年移行状況を見極めながらにはなるが、現状として提示できる金額は、この形で考えている。

(委員) 前回の会議の後、また何人かの保護者の方に話を聞く機会があった。前回までは給食費が上がるのは仕方ないという意見が多かったが、中学生の保護者からは、中学生の男子は食欲があり、今の給食でも少し足りないという話があった。運動部であったり、いっぱい食べることもあり、家での食費も上がり、給食費も上がった時に、その給食で満足して食べられるのかという意見や、男子と女子、子どもによっても食べる量が違うが、そういう部分も工夫して欲しいという意見があった。前回、野菜などはB級品ではなくC級品を使っている施設もあるという説明があったが、そういうことを知らない保護者も多いと思う。給食費を上げるにあたって、そのようなことも説明していくと、それなら仕方ないと納得して、払おうという気持ちになるという意見があった。

(委員) 今の意見を伺い、給食センターとしてもっと保護者の方に知っていただく努力が必要と感じた。また、先ほどの地場産物だけではなくということでは、見積りを取ったり、真田地域も同じ業者を使ったりして、少しでも安くする工夫をしている。いつも地場産物にこだわっているわけではなく、月に何回というところで、ピンポイントで高いものを使わせていただいている。安い物を使う時もあり、さらにこれからも工夫して、そして保護者の方や地域の方たちに理解していただけるような給食作りに努めたい。

4 事務連絡

次回の日程について

5 閉会 (事務局)